



★2さいAくんのママ

Aくんは、0歳代から目が合いづらい、表情が硬い、コミュニケーションがとりづらい等々の心配があり、母親である私は、ころんに辿り着くまで約1年、自治体や病院やコンサルなどを一通り回りました。そこで心配はあるとは言われていましたが、月齢が早いせいもあり、そのどれもが多くても月に数回というペースでしかAくんを見てくれることはなく、Aくんと関わりは主に私の肩に乗っておりました。早期に集中的な関わりが大切だということを本などで知っていた私は、私次第でこの子の人生が決まってしまうというプレッシャーに押しつぶされそうな日々を送っておりました。

そんな時に、ご著書を読んで感銘を受けていた、りさ先生率いる「ころん」にご縁があり、受け入れていただけることになりました。初回のコンサルで会ったりさ先生は、海のようになんでも受け入れてくださるような包容力を感じさせる一方で、鋭くきめ細かい子供への関わり方のアドバイスを次々に下さり、私はAくんに足りない「自然な感じ」をこの方なら教えて下さるのではと思いました。また、週4回でのセラピーを提案していただき、私は「自分が頑張らなければこの子はダメになる」といういつも頭にあった重石が外れ、すっと気持ちが楽になりました。

お教室も、吹き抜けの大きな明るい空間の中に、可愛らしい小屋や、お台所セットのある個室、トランポリンや滑り台がある、とてもおしゃれな児童館のような雰囲気、子供は夢中になってその中を走り回っており、このような場所であれば、子供を安心して預けられると思える場所でした。

グルーブレッスンの内容も、朝のお仕度、朝の会に始まって、工作や手遊び、お歌、絵本、お弁当の時間、公園へ行く時間、帰りの会等と幼稚園でやるようなことを季節感なども取り入れ丁寧にやっていただいているので、「特別なセラピー」という感じがせず、モニターで見ていると気持ちが楽でした。

ただ普通の幼稚園と違うのは、先生と子供の数の比率と、例えば、朝のお仕度では最後の一人が自分で身支度をやり終わるまで必ず待つ、手遊びの中では動作模倣を一人一人きちんとしていくまで待つ、朝・帰りの会では色々な質問をしてその中で音声模倣を一人一人促したり、お名前や好きな食べ物や今日やったこと等をきちんと答えられるようにする、絵本では「色」や「大小」といった概念を一人一人に聞いていく、工作では一人一人の手の巧緻性に合わせてシールの大きさを変えてある等、先生の関わり方が「一人一人に合わせて」「徹底して丁寧」であることでした。

「一人一人に合わせた」アプローチは、性格についてもしていただいております、例えば A くんであれば、りさ先生は、A くんが人のお世話をしたい性格であることを早いうちから分析され（私は A くんが末子であることから、A くんにそのような性質があるということは指摘されるまで気づかなかったのですが）、A くんに関与をすることで、素直に動くことができるようにして下さいました。何も特別なことではなく「丁寧な子育てだ」という意味が、先生方の関わりを見ていて、初めて分かりました。

ころんに通う前の A くんは、言葉も多く見積もって 1 語が 15 個くらい出ているかどうかで、それもとでも限られたものでした。しかし、グループレッスン 1 日目に A くんは先生に促されながらですが「○○くん、まてまて〜」と、お友達の名前を呼びながら、お友達を走って追いかけて 2 語を発しました。この時、私はここにいれば大丈夫という確信を得ました。

このようにグループでいることで、周りを見て切磋琢磨し、伸びていくことがとても多かったです。最初は椅子に座れなかった A くんも今は当然のように着座し、お友達と手をつないで公園へ行き、ほとんど残っていたお弁当も完食し、朝のお仕度も自分でして、トイレで排泄したりするようになりました。これらのことを、入園前に身につけられたのは本当に大きいことだと思います。

個別レッスンでは、言葉を伸ばすことをまずしようということで「共感の言葉」をかけるということを習いました。これはころん全体の関わりキーワードでもあると思います。それは、それまで本等で知っていた方法とは離れている気がして、私は最初とまどいました。しかし、共感の言葉を適切なタイミングでかけていくことで、A くんは言葉はどんどん伸びていきました。2 歳前に 2 語が出て、今では助詞や接続詞も使え、4 語 5 語を操れるようになりました。何より「会話」というものが少しずつできるようになり、毎日色々なお話ができるようになったのが楽しく、嬉しいです。

心配性な私は、少しでも成長がないなと思ったり、ここが何か違うと思ったりしたら、すぐ先生に相談しました。すぐに相談できるという環境自体が有難かったですし、先生方は絶対に流すことはなく、きちんと私の心配事に一つ一つ向き合ってくれて、対処法を考えて下さいました。ころんの先生方は、事務局の方も含めてひとつのファミリーのようで、担当でない先生でも、いつも A くんに関与をし、時にはちょっとした関わりをしてアドバイスを下さるようなこともありました。担当の先生方に至っては、本当に愛情をかけた関わりをして下さり、A くんもそれに応じて先生方の首に手を巻き付けて抱き着いたり、A くんにとってころんは本当に「もうひとつのおうち」のような存在になっています。こんな風に愛情をもって接してもらえると他にはないだろうと思います。

お教室で知り合ったお母様方も、みなさん柔らかなのに芯がしっかりした方ばかりで、人見知りの私ですが、すぐにお話できるようになりました。ころんに来るまで A くんが発達心配すぎてママ友を作るのも気後れしていましたが、ころんでは皆さん心配なお子さんを持った方々ということもあり、心を開いて自分の心配等を話せます。先輩ママさんも惜しみなく経験や情報を教えて下さいます。そういう場がある

こと自体が本当に貴重ですし、皆で意見交換したりする中で、関わり方のヒントを得たり、前向きになれることがたくさんあります。お教室の様子が見られるモニターのある2階は、そんなお母様方の涙あり笑いありのちょっとしたサロンのようになっています。

家でAくんと二人きりで必死に関わりをもとうとしていた頃からすると、信じられないくらい私自身が明るくなったと家族にも言われます。そしてAくん自身もとても明るく表情の豊かな子になったように思います。私がAくんについてネガティブなことを言うと、先生方は必ずポジティブに返して下さいます。Aくんの良いところをたくさん教えて下さいます。私はそれで、Aくんを「困った子」ではなく「可愛い子」といつも思うことができるようになりました。

私の意識が変わると、家族中の意識も変わりました。Aくんの上の兄弟は、ころんに来る前、私がAくんについてネガティブなことばかり言うので、Aくんと関わり方が分からないようなところもありました。しかし今では、遠慮なく可愛がり、遊んだり（Aくんがとても上手に会話できるようになったため、よく遊べるようになってきました）、喧嘩したりするようになりました。主人も休みの日にはころんへ通い、習ったことを実践するなどして、子育てにより積極的になってくれたように思います。なにより母親が明るくなったことで、家族中が明るくなったと思います。

Aくんの将来についても、ころんに来るまでは全くポジティブに考えることはできませんでした。もちろん、今でも心配は山ほどあります。それでも、できることが増え、彼を一人の人として前向きに見られるようになってきました。10月からは、週4回だったレッスンを週3回に減らして、その分、幼稚園のプレに行き始めました。プレで心配だなと思う点を先生方に伝え、ころんのレッスンの中で指導していただき、少しずつ良くなっていくのを実感しています。心配はあるものの、なんとか来年度の就園を考えられるところまでできたかなと思っています。今では、少しだけですが「将来が楽しみかも」と思えるようにもなりました。

今、このお教室を検討されている方の中には、自治体等でお子さんに心配があると言われたばかりの方や、自分で違和感を抱いているのに誰も理解してくれない等と悶々とされている方がいると思います。

小さければ小さいほど適切な関わり方は効果があると言われているのに、どこに行ったらそれを教えてもらえるのか分からないと私も絶望するような気持ちで思っていました。今では、1歳代という時期にりさ先生に出会って、ころんに辿り着けて本当によかったと思っています。

その子の持っているのびしろを最大限、ころんは自然で丁寧な育児の中で伸ばしてくれていると思えるからです。これは特別なことではなく、「子育て」だと思え、長期的な視野をもって無理なく続けていくことができます。私自身がそうでしたが、お子さんと二人で家に籠っていると、思考も暗くなりがちで追い詰められてしまうこともあるかと思っています。

そんな方に、ころんとの出会いがあるといいなと、私たち家族が救われたように救われて欲しいなと切に思います。

[今回ご協力頂いた、Aくん]

○通い始めた年齢・・・・・・・・1歳9カ月

○現在の月齢・・・・・・・・2歳3カ月

○週の利用回数・・・・・・・・グループ:2回、個別:2回から1回へ

